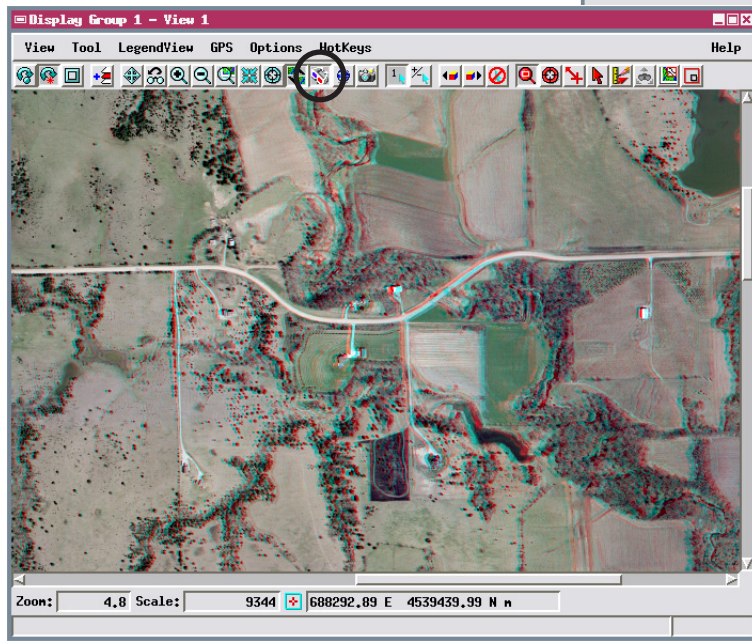
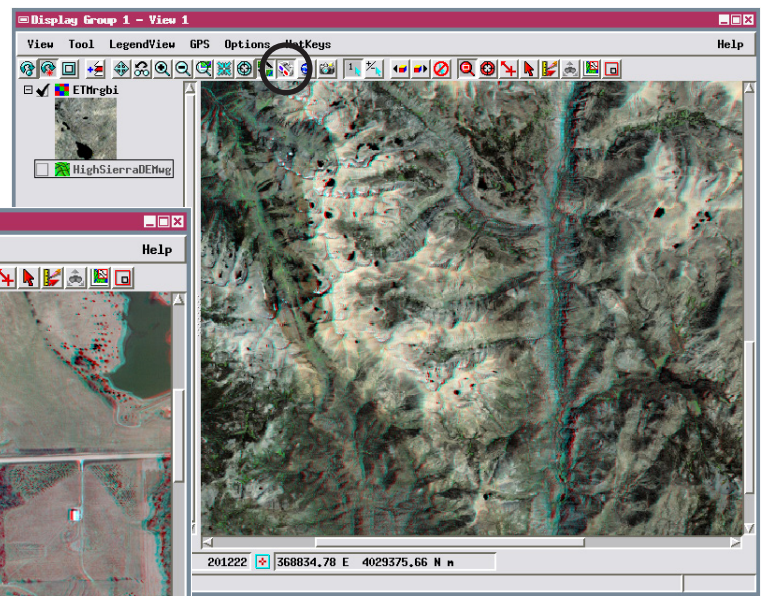
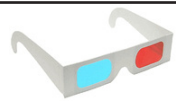


数値標高モデルを使ったオルソ (正射) 画像のステレオ表示

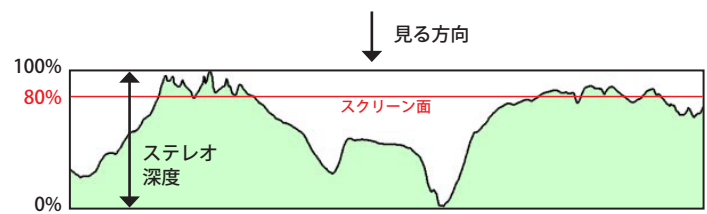
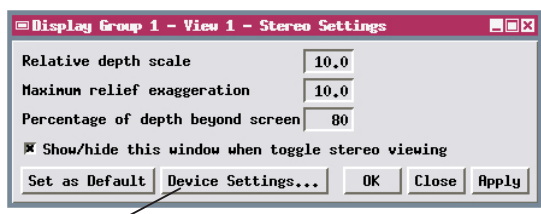
TNT 製品の 2D 地理データ表示画面では、どのようなラスターレイヤでも上空の特定の位置から立体表示できるレンダリングオプションがあります。画面上の [ステレオ (Stereo)] アイコンボタンを押すと、地形レイヤとして使用するラスターオブジェクトを選択するようプロンプトが出ます。この地形レイヤは表示中のグループと空間的に重なる必要はありますが、表示されているラスターの地理的範囲やセルサイズ、座標参照系と完全に一致する必要はありません。地形レイヤがグループに追加されて (地形レイヤと重なる領域に対して) 左右のステレオ画像が作られ、指定したステレオデバイス用の画像がレンダリングされます。電子シャッターステレオメガネ用の横インターレースもしくは縦インターレースの "ステレオモード"、カラー 3D メガネ用の "アナグリフ"、シャープ製

ステレオモニタ用の "SHARP モード" から選択できます。〈ステレオ設定 (Stereo Settings)〉ウィンドウが開き、そこでステレオ表示の調節ができます。[相対深度比率 (Relative depth scale)] 設定は、ステレオモデルにおける左右のステレオ分離量、即ち表示されたときに感じる 3D の「奥行き」を決めます。ステレオ深度を増やし、地形を垂直方向に強調するにはこの設定値を大きくします。[最大起伏強調 (Maximum relief exaggeration)] 設定は、過度に標高が強調されるのを防ぎます (1= 垂直強調無し)。[スクリーン内深度比率 (Percentage of depth beyond screen)] 設定は、このページ下の図に示すように、視線方向のステレオモデルの位置を決めます。

これらのウィンドウの図を立体で見ると、見るには 3D アナグリフ用赤青メガネを使用して下さい。



上図：カリフォルニアの山岳地形のオルソ補正済みパンシャープランドサット画像をアナグリフ用にステレオレンダリングしたもの。
左図：ネブラスカ州ランカスター地方のゆるやかな起伏のオルソ画像をアナグリフ用にステレオレンダリングしたもの。ステレオレンダリングをすると、影ではっきりしなかった地形の特徴や画像の特徴を明らかにしてくれます。



[デバイス設定 (Device Settings)] ボタンを押すと、〈ステレオ表示オプション (Stereo Viewing Options)〉ウィンドウが開き、表示デバイスに合ったステレオモードを選択できます。



ステレオを上から見た地形の横断面の図。[スクリーン内深度比率 (Percentage of depth beyond screen)] 設定は、モニタ面 (赤線で表示) に対してステレオモデルをどこに置くかをコントロールします。上図のスクリーン位置がデフォルト設定で、ステレオモデルの深度方向の 80% がスクリーンの奥にあります。この値を減らすとステレオモデルがスクリーン上に浮き出して見えます。